

北の農職家

KITA NO NOUSYOKUKA

2026

5

No.353



津別町農協 新役員体制

日時：令和8年4月17日（金）撮影
場所：JAつべつ会議室



第96回

通常総会開催

4月10日津別町中央公民館にて、正組合員196名に対し(本人出席57名、委任状18名、書面議決103名)合計178名となり過半数以上の出席が認められ本総会は成立しました。来賓12名の出席により第96回通常総会が開催されました。

総会の前段、「地域農業と農協の進路」と題して北海道大学農学部東山寛教授による①地域農業の進路(自己点検の必要性)②農協への結集(畑作地帯の農政運動の必要性:ゲタ制度の見直し・施設整備・肥料高騰対策)③地域農業と農協(農協に「余裕」がなければ地域は良くならない)の内容にて記念講演を開催しました。

又、今年1月ご逝去された大矢根督理事に対し、感謝状が長男の聖人さんに贈呈されました。農林水産省が主催する「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」において、津別町有機酪農研究会が「農林水産大臣賞」を受賞されました。津別町農業振興表彰に基づき、有機酪農研究会を代表して、山田耕太さんに功績を讃え記念品を贈呈し表彰しました。

佐野成昭組合長からの開会挨拶の後、来賓を代表して佐藤多一津別町長、ホクレン農業協同組合連合会橋本弘幸代表理事副会長よりご祝辞を頂きました。総会議長団には、共和地区(第7営農組合丸尾裕司氏と恩根地区(第7営農組合)池田健太氏の両氏が選出され全て承認可決されました。令和7年度事業利益は、前年度繰越額23,486千円 当期剰余金15,583千円 目的積立金取崩益14,217千円を加えた53,286千円を未処分剰余金処分案として計上されました。

安部仁職務代行理事より閉会の挨拶を行い本総会を閉じました。

組合長挨拶



開会挨拶
佐野 成昭 組合長

本日は津別農業協同組合第96通常総会にご出席いただき、誠にありがとうございます。春耕期を前に準備等のご多忙にも関わらず、多くの組合員の皆様へ御出席いただきまして、ご協力の賜り、重ねてお礼を申し上げます。ご来賓の各位におかれましては、ご多忙のところ、ご臨席を賜りありがとうございます。日頃より地域農業の発展と農協事業運営に對し心より感謝申し上げます。この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。昨年の営農を振り返ると、融雪期は例年より早く移植作業も順調に進みましたが、4月末には降雪もあり、一部ではん菜のまき直しも必要となりましたが、それ以降順調に回復しました。6月下旬からは一転少雨、高温になり7月24日には39度を記録するなど畑作物すべてに影響が出ました。小麦については、収穫時期が1週間ほど早まり、春まき小麦を含め7月中旬に終了するなど異例の速さでもありました。畑作・青果関係に目を向けると、玉ねぎの生産量は過去最低水準となり、小玉傾向となりました。甜菜および馬鈴薯についても、糖度(ライマン値)ならびに収量が平年を下回る結果となりましたが、一方で大豆等の豆類については平年を上回る実績を記録しました。しかし、畑作四品に對する経営所得安定対策は、急激な物価上昇に對する算定価格とはなっており、生産コストに見合った価格設定の確立が喫緊の課題となっております。酪農・畜産を取り巻く情勢については、輸入飼料価格の高止まりや物価上昇の影響を受け、酪農・畜産経営を巡る環境は、依然として厳し

い状況が続いております。生乳の需給調整や消費動向の変化などもあり、先行きに不安を感じられている組合員の皆様も多いことと存じます。津別町は、畑作・青果と酪農・畜産がバランスよく営まれていく地域であり、耕畜連携を通じて地域農業が成り立つてきました。畑作農家の皆様が生産された麦稈が酪農を支え、また酪農から生まれる堆肥が畑作を支える、こうした循環型の農業は、津別町ならではの大きな強みであると感じております。しかしながら、酪農・畜産経営の厳しさは、地域全体の営農に影響を及ぼしかねず、経営者の高齢化や後継者不足による離農は、畑作・酪農双方の中で大きな課題となっております。そのような中で、自然条件の厳しい津別の地で、日々創意工夫を重ねながら営農を続けてこられた組合員の皆様のご努力に、改めて敬意を表す次第でございます。国政では、経営安定対策や需給対策などが講じられておりますが、今後はさらに、畑作と酪農がともに持続できる地域づくりに向けた支援の充実が重要であります。当組合といたしまして、オホーツクの一員として、関係機関と連携を図りながら、組合員の皆様が安心して営農を続けられる環境づくりに、引き続き取り組んでまいりたいと考えております。この様な農業情勢の中、農産販売高31.9億円・交付金8.6億円・畜産販売34.3億円・合計74.8億円(前実績対比94%)となり、平年に比べると農産物販売の取扱が大きく下落しました。購買供給高については29.1億円(前実績対比96%)の実績となり、各種資材高騰の中、所得確保対策に向けたコスト削減の工夫が見られる実績となっております。食糧・農業・農村基本法の改正に伴い、昨年3月より新たな基本計画が施行されました。今後5年間で、2.5兆円の国費を投入し、農地の



来賓挨拶
佐藤 多一 町長

構造転換を集中的に推進する計画が策定されています。計画の具体的内容としては、農地の大区画化、既存共同施設の整備、スマート農業技術の導入促進、農産物輸出の拡大等が挙げられます。これらの施策の背景には、農業従事者の高齢化、農家戸数の減少、それに伴う農地面積の拡大および担い手対策など、国内農業の構造的課題が存在します。政策の主旨は、生産意欲の高い農業者の育成と農地資源の最大限活用による食料自給率向上にあります。事業の必要性については理解するものの、現状では多様な農業形態の維持が重要であり、さらに気候変動、資材価格の高騰、国際情勢の変化など、農業環境の急激な変化が生産現場に大きな影響を及ぼしています。生産者は厳しい状況下で工夫を重ねて営農継続に努めていただいているものの、即時の改善には高い障壁があり、将来的な投資が可能となる農業所得の確保が喫緊の課題となっております。昨年7月の参議院選挙では農協政治連盟で推薦された元道北なよろ組合長の東野ひでき氏、本年2月の衆議院選挙では武部あつた氏が厳しい環境の中、組合員の皆様に大変お世話になりました。見事勝利する事ができました。しかし、喜んでばかりはいられません。農業情勢では、現時点で抱える課題も多く、このままでは将来に向け意欲を持ち再投資できる環境には無い事より、課題解決に向けて全JAグループを挙げて、与党議員、農水省に働きかけている所でございます。今回の選挙では、道内全選挙区において勝利したこともあり、生産現場の生の声をより直接発信できる国会議員が増えたことは、大きな強みです。今後は、そうした議員に課題解決に向けて尽力してもらう必要があります。特に本年は、経営所得対策改正の検討に入る



来賓挨拶
ホクレン
橋本 弘幸 代表理事副会長

96通常総会を開催しました。総会の前段、「地域農業と農協の進路」と題して北海道大学農学部東山寛教授による①地域農業の進路(自己点検の必要性)②農協への結集(畑作地帯の農政運動の必要性:ゲタ制度の見直し・施設整備・肥料高騰対策)③地域農業と農協(農協に「余裕」がなければ地域は良くならない)の内容にて記念講演を開催しました。又、今年1月ご逝去された大矢根督理事に対し、感謝状が長男の聖人さんに贈呈されました。農林水産省が主催する「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」において、津別町有機酪農研究会が「農林水産大臣賞」を受賞されました。津別町農業振興表彰に基づき、有機酪農研究会を代表して、山田耕太さんに功績を讃え記念品を贈呈し表彰しました。佐野成昭組合長からの開会挨拶の後、来賓を代表して佐藤多一津別町長、ホクレン農業協同組合連合会橋本弘幸代表理事副会長よりご祝辞を頂きました。総会議長団には、共和地区(第7営農組合丸尾裕司氏と恩根地区(第7営農組合)池田健太氏の両氏が選出され全て承認可決されました。令和7年度事業利益は、前年度繰越額23,486千円 当期剰余金15,583千円 目的積立金取崩益14,217千円を加えた53,286千円を未処分剰余金処分案として計上されました。安部仁職務代行理事より閉会の挨拶を行い本総会を閉じました。



J A 綱領朗唱
J A つべつ青年部
西原浩一郎 部長

重要な年でもあります。J A グループとしても、持続可能で再投資できる所得環境改善のため、5月より積極的に中央要請等の農政活動を進める計画になっておりますので、組合員の皆様にもなお一層の支えをお願いする所です。

第10次農業振興計画は3年目に入りました。毎年、議題の審議と進捗状況の検証を行い、時代の変化にも柔軟に対応しております。

特に3つの重点政策の中でも、農業所得の向上と持続可能な農業生産は、農家にとって最も重要な課題です。スマート農業の実践には、圃場の大区画化や勾配修正、排水整備などが国営農地再編事業で進められており、残る農地についても道営畑継事業で引き続き継続を致します。また、改良後の土壌においては、土壌診断による不足要素の補充や堆肥の投入、緑肥作物のすき込みなど継続した地道な土地改良が必要不可欠ですので、確実な実施をお願いします。また、担い手確保や労働力支援についても課題は残っていますが、引き続き継続的なサポートを行うて参ります。

当町に於いては、農地の30%が通信不感地区であることから、解消に向けた実証試験を進めてきましたが、今年から2年間の施設整備事業が始まります。不感地域でもGPS自動操舵や可変施肥、ドローン散布などが可能となり、作業効率の向上や資材コストの削減が期待されます。この事業に対しても、町からのご支援を頂いた事に深く感謝申し上げます。

早い物で、現役員として最後の総会を迎える事となりました。

農家を悩ませている主な問題は、農産物の収穫量が安定して増えず、可処分所得が減少している点であります。その背景には、気候変動や物価高、円安、中東紛争といった農業を取り巻く環境の変化が顕著に現れています。農業は天候の影響を大きく受ける不安定な産

業であり、収穫物も実際に収穫するまで分からない事が多いものです。

このような状況だからこそ、営農貯金の積み増しや、万一に備える共済制度や制度資金の適切な活用、組合員へのセーフティネットによる支援が必要不可欠であります。また、異常気象時でも経営努力や栽培技術の向上、牛飼いの場合は日々の観察など、小さな積み重ねが重要となります。さらに、肥料や農薬、飼料の取りまとめ購入、機械の共同利用、作業工程の見直しによる支出削減や収益構造の改善など、厳しい経営環境だからこそ農業所得確保に向けた営農が重要となります。

先の見えない時代に生き残るには、時代の変化に如何に対応して行くか、一歩先では無くその先を見ていけば修正は可能であり、農業問題もこれからどうするかと悩むのでは無く、先見性を持ちポジティブに考える事でもあります。

このような農業情勢を踏まえ、当J A の財務状況も依然として厳しい状態であります。各事業については、業務の効率化や管理の徹底によるコスト削減を進めると共に、収益性向上に努め、安定した収支構造の確立を目指し、重ねて、本町の基幹産業である農業の発展の為、努めて参ります。

最後になりますが、本総会に於いて、今までお話しした内容を含めた令和7年度事業報告、令和8年度事業計画案含め議案第1号から第6号議案、報告事項4件を提案させて頂きました。今回は、3年に一度の役員改選であります。各業種のバランス、経験値や津別農業の将来を見越し活躍できる人材を選んで頂きました。十分にご審議の上、ご承認頂ける様宜しくお願いと共、組合員皆様の前向きなご意見と議事進行により、実りある総会となる様心からお願い申し上げます。



長瀬 信一 代表監事



▲全体出席者



▲役員職員席



▲来賓席



▲退任役員挨拶



▲新役員挨拶



▲議長団 左から丸尾裕司氏・池田健太氏



▲記念講演：東山寛教授



▲記念講演会



▲津別町農業振興表彰：山田耕太氏



▲感謝状贈呈：大矢根聖人氏

～ 退 任 挨 拶 ～



前代表理事組合長 佐野 成 昭

第96回通常総会終了を持ち6年在籍していました組合長の職を退任いたします。
在任中は、組合員、職員の皆様、並びに関係機関の皆様から多大なるご指導とご支援を賜りました事に心より感謝とお礼申し上げます。

振り返りますと、平成14年より監事を3期、理事を3期、組合長を2期、計24年間にわたり役員の職務を務めてまいりました。この長期間にわたる業務継続は、組合員の皆様のご支援、職員各位の協力、並びに役員選考委員の皆様による推薦を頂いた事に起因すると深く認識しております。心より感謝申し上げます。

私が役員になった当時は、正組合員200戸（現在70%）、貯金残高72億円（現在190%）、24年間で組合員が30%減で貯金が1.9倍に伸びました。背景には離農が進み各農家の面積も拡大傾向となり農業経営も安定して来た時期でもありました。

この頃から冷災害も無く玉ネギの暴落も無く、新規参加者が酪農跡地を継承する組合員が出てきた時期でもあり、その後協合法人が出来上がり、日本初有機酪農研究会もこの時期であり、畑作、酪農共に活気にあふれ、後継者が次々とUターンで親元に帰って来る良き時代であり、農家個々も機械、施設の投資も活発に行われ、安定した農業経営が長く続くとも誰もが思っていました。

私は、組合長を2年以前山下組合長から引き継ぎましたが、コロナ禍の真最中で行動制限もあり今まで経験した事が無い事態でありました。

農業資材の高騰を始めインフレで物価が上がり、農業機械も2倍に跳ね上がり、加えて天候異変、など営農活動も年々厳しく先を見通せない状況下でのかじ取りになりました。

物価高や異常気象、中東情勢の不安といった厳しい社会環境、さらには少子高齢化という大きな時代の波の中で、営農を続けていくことは決して容易なことではありません。しかし、このような困難な時代だからこそ、皆様の知恵や努力、そして組合員としての絆がこれまで以上に大切になってくると信じております。これからは新しい挑戦を恐れず、次世代へと豊かな農業を繋いでいく皆様のご健闘を心よりお祈り申し上げます。

最後になりますが念願の新事務所は、二転三転の末、今の地での建設となり、私は、この素晴らしい事務所で仕事が出来たことは、一生忘れることが出来ません、感謝の気持ちで一杯です。

新事務所は、これからの地域農業を支える拠点として、町の中心地として整備する事が出来ました。これまでの準備に携わってくださった関係者の皆さんに、改めて深く感謝申し上げます。

今後はこの事務所から新たな時代の動きにも即応し、組合員の皆様の声に寄り添い地域発展とJA結集により将来に羽ばたくJAつべつを期待しています。

今まで、多くの組合員の皆さんにご支援、ご指導頂いた事に深く、深く感謝申し上げます。退任の挨拶といたします。ありがとうございます。



前常務理事 岡本 幸 年

陽春の候、組合員・職員の皆様には益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。

この度、4月10日の第96回通常総会をもちまして、任期満了により津別町農業協同組合の常務理事を退任致しました。

顧みますと、昭和55年に入組し、平成23年から参事として任命頂き、令和2年からは常務理事として、合わせて46年間にわたり協同組合運動に関わり、微力ではありましたが津別町の農業振興、地域発展に携わることが出来ました。

この間、歴代組合長や役職員、組合員の暖かいご支援とご協力に支えられ、今日まで務める事が出来ましたこと、衷心より感謝とお礼を申し上げます。

厳しい農業情勢の中、平成11年にJA出資型法人(有)だいちを創設し、新規参加者等へ円滑な資産譲渡する事を目的に、故大矢根憲太郎JA理事様の熱い現地指導の下、4牧場を取得し整備運営を図りながら、府県等からの新規参加者へ譲渡(橋渡し)を行い、酪農生産の維持拡大と地域集落や各組織の活性化に取組みました。

又、度重なる冷災害により組合員の離農が増え、農地流動化や集落維持等の対策として、集落を拠点とする畑作複数戸協業法人を関係機関の指導を頂き、平成11年から5法人が設立に至った事は、効率的経営体の確立と後継者対策等の打開策ともなり、農地流動化や新規就農の促進へと繋がりました。

多様な産業等との連携を図り広域的な取組として、網走川流域の1市3町の全てのJA・漁協・森林組合・自治体と大学等による網走川流域の会が平成27年に設立され、次世代に引き継ぐ持続可能な地域協働による流域社会の構築を目指した活動の展開や、農地崩落の速やかな復旧着手の制度整備と支援・救済措置の対応を実施して参りました。

国営農地再編整備事業津別地区は、津別町の財政支援を頂き174億円を投じ10年間の歳月を経て令和6年度完工となりました。大区画化等の基盤整備によりスマート農業を活用した、より一層の作業効率化と省力化が図られ、農業経営の更なる強化となりました。

一方、平成23年以降29戸の離農・職員の離職や厳しい財務状況等、十分な役割を果たせなかったとの思いはありますが、充実したJA人生の時を全うする事が出来ました。

今後は、新役員体制のもと、時代の変化に適應したJA事業と次世代経営者の価値観にも対応し、食料供給基地を担うにふさわしい農業所得の確保と、地域を支え組合員や地域住民にとって、なくてはならない組織となる為、確実な実践による理解と共感を得る取組みを願うところです。

組合員・JA・関係機関が一体となり、常に危機意識とチャレンジ精神の気概を持ち、豊かな農村空間の実現が図れる事を確信しております。

JAは人的結合体であります。組織の力は人の力次第と言われており、人間力を高め、協同する組織をつくりあげる努力が必要であり、働き甲斐のある職場づくりに向け、職員の心理的安全性を高くし、一人ひとりが成長できる職場を目指して頂きたいと思っております。

これからは一地域住民の立場で、今までの恩返しが出来ればと思っています。

末筆ながら、これまでのご厚情に感謝申し上げ、皆様方のご健勝とご多幸をお祈りし退任のご挨拶と致します。大変お世話になり有難うございました。



前代表監事 長瀬 信 一

組合員・職員の皆様には益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。

この度、4月10日の第96回通常総会にて、任期満了となり津別町農業協同組合の代表監事を退任致しました。

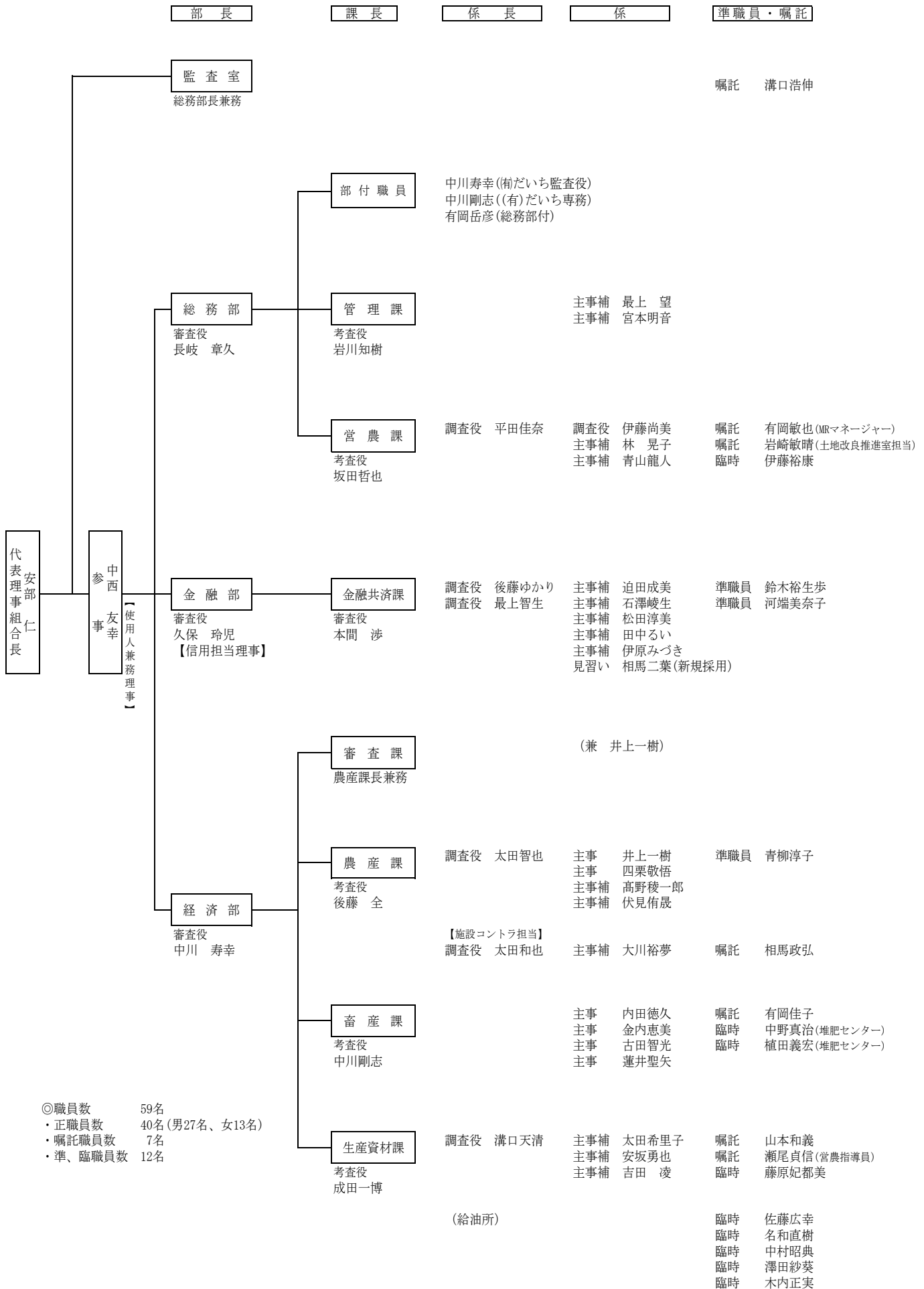
振り返りますと、4期12年間在任中、組合員、農協、役職員の皆様には、大変お世話になり有難うございました。

四半期監査の時には、職員が作った書類、沢山の資料を見なければならぬ義務があり、何時も張り詰めた空気の中での仕事でしたが対応して頂いた職員と自分の意見との間に共通の認識が出来た時は、ほっとする瞬間でした。

新しく選任された監事には、若さを糧に精一杯頑張りたいと思います。

これまでのご厚情に感謝申し上げ、皆様のご健勝と益々のご活躍をお祈りし退任のご挨拶と致します。

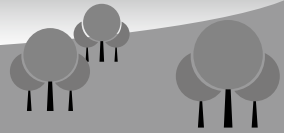
機 構 図 (令和8年4月10日現在)



◎職員数 59名
 ・正職員数 40名(男27名、女13名)
 ・嘱託職員数 7名
 ・準・臨職員数 12名



JA情報館



JA新人職員向け研修を開催！

3月31日JA研修室において、今回金融共済課に配属された新人職員1名により開催致しました。

研修会は、中西参事が講師となり、自己紹介から始まり、JAの機構図・配置図・就業条件等の説明に続き、マナー及びコンプライアンスの重要性が話されました。

尚、新人職員1名については、職場に人事配置され、業務にあたっていますので宜しくお願い致します。



春の農作業安全啓蒙を実施！

農作業事故が多発する農繁期に啓蒙活動を通じて、農作業事故を目指す目的で4月20日～5月8日にかけて延べ11日間で安全啓蒙の地区巡回を営農課にて実施しました。今後、てん菜・馬鈴薯・大豆などの播種作業が、最盛期を迎えますので、農作業には十分注意を頂き進めて頂きます様、宜しくお願いします。

尚、「農業用安全旗」及び「ゴミ捨てるなのぼり」を営農組合長あて配布させて頂きましたので、注意喚起方のぼりの設置にご協力下さい。



津別町スマート農業研究会 第10回 定期総会を開催！

3月31日JA会議室にて津別町スマート農業研究会（谷 智博会長）は、令和7年度定期総会を開催しました。スマート農業研究会役員5名、来賓として佐野組合長、津別町産業振興課 渡辺課長補佐、網走農業改良普及センター 美幌支所 竹永係長、会員18名、JA職員4名の合計30名が出席しました。開会にあたり、谷会長が開会挨拶をした後、来賓を代表して佐野組合長が祝辞を述べました。石原正士氏を議長に選出し議事進行が行われ全ての議案が承認可決されました。又、役員改選により新役員体制も承認されました。

総会終了後、(株)スマートリンク北海道 小林伸行氏より「今後のスマート農業の展開について」講演頂きました。

※新役員体制	会長	金一 善紀		
	副会長	鹿中徳三郎	河本 務	
	監事	真鍋 宗慎	石原 正士	



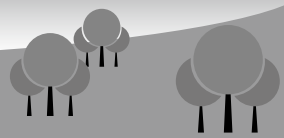
JAつべつ青年部活動をSNSページにて随時更新中です！是非ご覧下さい！Facebook、Instagram

Facebook QR Instagram QR





JA情報館



種子馬鈴薯の春引渡しを実施！

種子馬鈴薯生産者は3月31日から、一般生産者については4月2日からそれぞれ4月24日までの日程で、種子馬鈴薯の引渡しを活況事業所構内にて実施しました。

一般生産者への引渡し品種と数量は、男爵86.58t、トヨシロ132.90t、ぼろしり337.05t、スノーデン198.07t、コナヒメ315.05tの合計5品種(一部品種除く)で出荷数量合計は、264.50tを品種毎に引渡日を設けて引渡しを行い、町外生産者へは137.13tの引渡しとなりました。今年の規格はM・Sを中心に配分しております。



共済一斉推進の御礼について！

4月6日から3日間の日程で、共済連北見支所推進グループ坂本課長と高橋調査役の御協力を頂き、併せて各課職員の応援のもと3班体制にて長期共済一斉推進を実施致しました。

6日の朝礼では、共済連北見支所 笠島支所長から昨年度の目標達成の御礼とオホーツク管内トップバッターの共済推進で新事業年度の共済一斉推進に対し激励を頂いた後、各地区毎に推進に向かいました。春耕開始前の準備で忙しい時期ではありましたが、組合員の皆さまには担当者からの説明に熱心に耳を傾支所長けて頂きました。

今後も『ひと・いえ・くるま』の最適保障を組合員や地域の皆様に提案させて頂き、安心と親しまれるJA共済を目指して共済事業を進めてまいりますので、ご愛顧の程宜しくお願い致します。

【推進結果】 推進PT目標 60,000PT 推進実績 79,062PT 目標対比 131.77%



▲共済連北見支所 笠島支所長

令和8年産 加工馬鈴薯コントラ利用者(播種)全体会議を開催！

4月15日JA会議室にて、令和8年産馬鈴薯コントラ播種作業の全体会議を利用生産者11名、カルビー1名、JA4名、合計16名の出席のもと開催しました。

令和8年産の利用面積は、播種71.80ha 収穫116.0haを予定しています。

この全体会議では、①個人別播種面積及び播種計画について ②JAつべつ馬鈴薯コントラ事業実施要領について ③管理体制並びに緊急連絡網及び業務分担表について確認しました。



令和8年度 第1回小麦青空講習会を開催！

4月7日網走農業改良普及センター美幌支所を講師に招き、③達美地区 きたほなみ圃場 ②大昭地区 ゆめちから圃場の2カ所にて、延べ生産者59名、普及センター2名、JA職員6名の合計67名参加のもと第1回小麦青空講習会を開催しました。

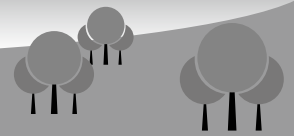
講習内容は、津別町の秋まき小麦の起生期は4月初旬から迎えており、秋まき小麦 起生期以降の技術対策として、圃場に入れるようになったら追肥のタイミング等の説明を受けました。又、茎数の測定方法について、茎数調査の計測を実際に行い確認しました。強風対策でタイヤローラーによる鎮圧の作業についてもお願いしました。

次回の第2回青空講習会は、5月下旬の開催を予定しています。





JA情報館



北海道猟友会津別支部総会及び第44回射撃大会を開催！

4月11日支部会員23名出席のもと、JAつべつ会議室において猟友会津別支部の総会が開催されました。来賓として佐藤多一町長、渡辺産業振興課長、菊池主事、JAつべつ安部組合長の祝辞を賜るとともに提起された議題は、議長に選任された金一善紀さんの進行により、すべて承認されるとともに、役員改選にあつては新たに副支部長として上里の中山和彦さんが選任されました。

また、同日は支部主催の射撃大会も開催され、総会開催前に表彰式が行われました。

※猟友会新役員体制（敬称略）

- ・支部長 大矢根修一
- ・副支部長 中山 和彦
- ・理事 大下 信吾、尾形 良二（監事兼）、新谷健太郎、建石 博、中山 貴行、岡本 功夫（監事兼）、市場 達也

○射撃大会の結果

・ライフルの部	1位 長尾 隆行	2位 戸来 芳彦	3位 岡林 博善
・散弾銃の部	1位 星 幸司	2位 村田 達也	3位 尾形 良二
・空気銃の部	1位 建石 博	2位 星 幸司	



令和8年度 スタンド「夏タイヤフェア」を2日間実施！

4月17日・18日の2日間、ホクレン津別セルフ給油所ではホクレン北見支所 坂井職員や3社のタイヤ販売業者・桑原電装様のご協力を頂いて夏タイヤフェアを実施しました。フェア期間中に15ℓ以上給油されたお客様には、BOXティッシュ5箱入を1パックプレゼントしました。

フェア期間中の実績は、ハイオク・レギュラーは9.36㎥（計画対比72.27%） 軽油は1.63㎥（計画対比84.89%） タイヤ134本（計画対比103.07%）でした。

5月31日までは、ホクレンブランドオイル（税込3,000円以上）にてオイル交換されたお客様には、BOXティッシュ5箱入を1パックプレゼント実施中です。当給油所でタイヤ交換と合わせて是非ご利用下さい。



第三回理事会報告 開催日 令和8年4月17日

報告事項

- ① 令和8年3月末財務状況について
- ② 第96回通常総会の終了について
- ③ 令和7年度税申告概要について
- ④ コンプライアンス事故報告（下期事務ミス）について
- ⑤ 特定組合員の経営状況について
- ⑥ 畜産クラスター事業の実行報告について
- ⑦ 融資実行報告について
- ⑧ 各作物の状況及び生産者団体の活動状況について
- ⑨ 各課報告事項について

付議事項

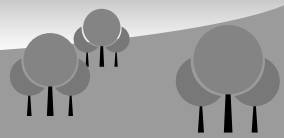
- 議案第1号 理事に対する令和8年度クミカン供給認定について
- 議案第2号 令和8年度理事報酬額並びに支給方法について
- 議案第3号 利益相反取引について
- 議案第4号 行政庁用業務報告書の提出について
- 議案第5号 マネー・ロンダリング等への対応に関する規程の改正について
- 議案第6号 情報セキュリティ基本規程の改正について
- 議案第7号 子会社による畜産・酪農収益力強化整備等機械導入事業に係る要望調査の申請について
- 議案第8号 美幌地方農産加工農業協同組合連合会への役員推薦について
- 議案第9号 クレイドル食品株式会社への役員候補者の推薦について

協議事項

- ① 特定組合員の対応について
- ② 小麦収穫委員会について



JA情報館



津別町農業振興計画推進委員会を開催！

3月30日JAつべつ会議室にて、津別町農業振興計画推進委員会が関係者30名の出席のもと開催されました。委員会の会長でありますJA佐野組合長より挨拶の後、第10次津別町農業振興計画の2年目検証及び令和8年度計画について討議が進められました。

特に全体の総括会議を開催するにあたり、3月の推進会議1回の開催では不十分であり検討を要する意見がありました。

本日の会議意見を踏まえて、各座長と今後の方向性や全体会議の開催の在り方について協議を進めることで確認しました。

最後に職務代行理事の安部副会長の閉会挨拶で終了しました。



令和7年度 津別町乳質改善共励会表彰式！

4月27日JAつべつ会議室にて、令和7年度津別町乳質改善共励会表彰式が行われました。町内の酪農家から出荷された牛乳において、毎月3回上旬・中旬・下旬ごとに検査（年間36回）される体細胞数・生菌数が最も少ない生乳を出荷した生産者が受賞となります。今年の実績は、最優秀賞に織田達明さん、優秀賞に小林正弘、努力賞に木村 力さんが受賞されました。



第77回津別町酪農振興会通常総会・第34回津別町酪農ヘルパー組合定期総会を開催！

4月19日JA会議室にて、会員12名、来賓4名、JA職員4名の合計20名の出席のもと津別町酪農振興会（柏葉宏樹会長）は第77回通常総会並びに津別町酪農ヘルパー組合（柏葉宏樹会長）は第34回定期総会を開催しました。開会にあたり、柏葉会長が開会挨拶をした後、来賓を代表して当JA安部組合長と津別町渡辺産業振興課長が祝辞を述べました。

その後、議長に小野塚一郎氏が選出され議事進行が行われ、全ての議案が承認可決されました。



▲祝辞：安部組合長



▲柏葉振興会長

第27回 津別町有機酪農研究会通常総会を開催！

津別町有機酪農研究会（石川賢一会長）は、4月24日JA会議室にて、会員6名と来賓10名、JA職員3名の合計19名の出席のもと、令和8年度通常総会を開催致しました。

開会にあたり石川会長が開会挨拶をした後、来賓の安部組合長、(株)明治 林副部長、津別町 渡辺産業振興課長、より祝辞を賜りました。

その後、石川会長が議長を兼任し議事進行が行われ全ての議案が承認可決されました。

総会終了後、農業改良普及センター美幌支所 安藤専門指導普及員より、粗飼料（有機）主体メニューの取組結果と題して、「R7/R5年対比の生産性・経済性比較」について、講演頂きました。



▲石川賢一会長

営農課からのお知らせ

5月中旬～6月中旬までの営農技術

畑作物

【秋まき小麦】

幼穂形成期を過ぎて、出穂期までの大事な時期です。特に止葉期の施肥管理は小麦にとって特に重要なポイントとなります。天候にも左右される時期ですが、生育の状況に合わせた最後の追肥を行うことで、収量・品質の安定化を図りましょう。

茎数は多すぎませんか。草丈は伸びすぎていませんか？

「きたほなみ」は幼穂形成期の茎数が900本/m²を超える場合、倒伏のリスクが高まります。混み過ぎている圃場や大豆間作小麦では茎稈伸長抑制剤を使用して下さい。

■秋まき小麦 茎稈伸長抑制剤

薬剤名	使用時期	10a当たり 使用量	10a当たり 散布水量	使用 回数
サイコセル P R O	幼穂形成期 (5月7日頃)	150～200m ℓ	100 ℓ	2回
	小麦出穂前20日～10日 小麦の草丈 (40～60cm) (5月25日～6月5日)	200～300m ℓ		
カルタイム フロアブル	止葉期 (止葉50%展開) ～ 出穂5日前まで (5月30日～6月3日頃)	150m ℓ	100 ℓ	1回
エスレル10	止葉期～出穂始期 (5月30日～6月7日頃)	200～333m ℓ 少水量散布 200m ℓ	100 ℓ 少水量25 ℓ	1回

※サイコセルは秋まき小麦で2回使用できます。すでに幼穂形成期にサイコセルを使用した場合でも出穂前に使用できます。使用量に注意して下さい。

■春まき小麦 茎稈伸長抑制剤

薬剤名	使用時期	10a当たり 使用量	10a当たり 散布水量	使用 回数
サイコセル P R O	小麦6葉期前後 小麦の草丈 (30～40cm) (6月1日頃)	150m ℓ	100 ℓ	1回
カルタイム フロアブル	止葉期 (止葉50%展開) ～出穂始期 (6月13～22日頃)	150m ℓ	100 ℓ	1回
エスレル10	止葉期 (6月13日頃)	200～333m ℓ	100 ℓ 少水量25 ℓ	1回
	出穂始期 (はじめて出穂を見た日から20% 出穂まで) (6月22日頃)	100～200m ℓ		

※春まき小麦のエスレル10の使用は上表の2つの時期のどちらか1回の使用となります。

病害虫 (うどんこ病、赤さび病、葉枯症状、ふ枯病) の発生し始める時期です。止葉とその下2枚の葉は成熟期まで実に養分を送る重要な役割をしています。圃場の観察を行いながら、早期発見に努め、見つけしだい防除を実施し葉を守って下さい。

【豆 類】

は種時期になってきます。豆類は土壌水分が抜けにくい土壌では健全な生育ができません。根は根粒菌も含め、空気を必要としていますので明渠の整備、暗渠の確認、簡易暗渠（サブソイラ等）の施工を行い土壌の透排水性を改善してから作付けを行って下さい。生育初期に土壌水分が高い状態が続くと生育抑制がかかります。

は種に当たって、圃場の表面のは種床（地表5cm程度）の碎土は丁寧に行ってください。

【ばれいしょ】

除草剤は使用時期・対象雑草を確認し、散布時期を逸しないことが重要です。作型を考慮の上適切な対応をお願いします。

除 草 剤 名	処理方法	散布時期	使用回数	10a当たり 使用量	10a当たり 希釈水量	対象雑草
ロ ロ ッ ク ス	全面土壌散布	植付直後～萌芽前 (雑草発生始期)	1	100～150g	70～150ℓ	1年生雑草全般 (スズメノカタビラを含む)
ラクサー乳剤	全面土壌散布	植付後～萌芽前 (雑草発生期)	1	400～600ml	100ℓ	1年生雑草
フルミオWDG	全面土壌散布	植付後～萌芽前 (雑草発生前)	1	10g	100ℓ	1年生広葉雑草
センコル水和剤	全面土壌散布 または 雑草茎葉散布	植付後～萌芽直前	1	100g	100ℓ	1年生イネ科雑草及び広葉雑草 (ソユサに効果あり)
デュアルゴールド	全面土壌散布	植付後～萌芽前 (雑草発生前)	1	100～130g	70～100ℓ	1年生雑草 主にイネ科
モーティブ乳剤	全面土壌散布	植付後～萌芽前 (雑草発生前)	1	200～400ml	70～150ℓ	1年生雑草
ポルトフロアブル	雑草茎葉散布	イネ科雑草3～8葉期 (収穫前日まで)	1	200～300ml	100ℓ	1年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)
ナ ブ 乳 剤	雑草茎葉散布	1年生イネ科雑草3～5葉期 (収穫前日まで)	2	150～200ml	100～150ℓ	1年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)
		1年生イネ科雑草6～8葉期 (収穫前日まで)		200ml		

【てんさい】

6月上旬の活着状況によってその年のてんさいの良し悪しが決まってきます。

てんさいも土壌水分過多を嫌いますので、定植後のサブソイラ施工や、中耕をこまめに入れるなど、土壌環境を整えて下さい。

各作物の農薬散布に当たっては、周辺作物への飛散が無いように、風向きや風速を考慮して防除を行ってください。

網走・西網走漁協からの応援証受証者連携会議 第8回定期総会を開催！

4月17日美幌町民会館 中ホールにおいて、応援証受証者連携会議 第8回総会が開催されました。来賓を代表して網走漁協の新谷組合長の挨拶に続き、議長となった山田照夫会長の進めにより議事は全て可決承認されました。

事業計画として、①会員の取組み内容研修 ②連携協、流域の会の活動内容の説明 ③参加団体の各種催事への協力 ④研修会・情報交換会の開催について確認されました。

又、役員改選により新役員体制も承認されました。

※新役員体制 会長 石川 剛 (津別有機農業推進協議会会長)
副会長 道山 マミ (合同会社大地のりんご代表)
事務局長 有岡 敏也 (JAつべつ総務部営農課)



第11回 網走川流域の会総会を開催！

4月17日美幌町民会館 中ホールにおいて、網走川流域の会 第11回総会が開催されました。オホーツク総合振興局 局長 大浦正和氏・美幌町長 平野浩司氏の祝辞を賜った後、議長となった新谷会長(網走漁協組合長)の進めにより議事は全て可決承認されました。

本年度は、酷暑対策プロジェクト会議作業部会の取組として「水辺緩衝林の植林による土砂流入防止と河川水温の上昇抑制」の効果検証を取組む事とし、その検証事業費の一部を北海道開発協会の地域活性化活動助成への申請予定を計画しております。

総会後は、網走開発建設部 佐藤善文部長の挨拶に続き、会主催のシンポジウムが85名の参加により開催されました。

今回は、東邦レオ(株)事業戦略担当 柴田俊介氏が「網走川流域におけるグリーンインフラ事業について」、パタゴニア日本支社 オーシャンイニシアティブス・ディレクター 柳谷牧子氏が「分断からの関係性の再構築へ～沿岸生態系の再生を共創する～」と題して講演を行いました。

シンポジウムは、多くの参加を頂き、年々、網走川流域活動の取組が農林漁業関係者や官公庁を始め、多くの一般企業にも関心と理解が得られている事が実感できる総会となりました。



年金友の会情報

第1回 ゲートボール大会

開催日：令和8年4月16日(木)
開催場所：豊永 屋内ゲートボール場
参加人数：27名(男：16名 女：11名)

優勝	佐野チーム(佐野 信子)	堂藤 優	手賀 武一	笠井キヨ子
準優勝	井上チーム(井上 隆幸)	土江 幸子	細川 順弘	竹内 武二
3位	柏木チーム(柏木 茂)	丸尾 諭	鵜田 康史	北本 孝子
4位	佐藤チーム(佐藤 朝代)	佐藤 正明	長尾 照子	山下 昌子
5位	鹿中チーム(鹿中 順一)	細川 恵市	溝瀨 勇	サカ工 幅口 悦子
6位	山田チーム(山田 照夫)	小野 五島 良雄	佐藤 卒子	新山 和子



新人職員紹介

そうま ふたば
相馬 二葉 (22歳)

【金融部 金融共済課】

出身地：網走市
最終出身校：釧路公立大学
趣味：編み物



■ J A職員としての抱負■

津別町農業協同組合の職員の方々や農家の方々と信頼関係を築けるよう、誠実に業務に励みたいと思います。今は分からないことばかりですが、一日でも早く仕事を覚え、組合員の皆様や津別町に貢献できるように頑張ります。これからどうぞ宜しくお願い致します。

せお さだのぶ
瀬尾 貞信

【経済部 生産資材課】

採用形態：嘱託職員



■ 業務体型■

主に資材課を拠点として、営農技術指導を中心に経済部と営農課と連携し業務に当たって頂きますので宜しくお願いします。

退職のお知らせ

村田 達也 (総務部 管理課長)

【退職日：令和8年3月31日(定年退職)】

村田課長は、昭和61年5月に入組以来、生産資材課勤務(給油所係)に配属されました。以降は、生活店舗課・営農相談課・管理課・生産資材課・経営相談課・(有)だいち出向・農産課・管理課等を経験し、令和8年3月に60歳で定年を迎え、本日まで勤務されました。

多くの課を経験させて頂きましたが、この度、令和8年3月末日を以て、定年により退職となりました。40年11カ月と大変長いJ A人生でしたが、津別町農業協同組合・組合員の皆様方の益々のご発展、ご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



園部 守 (経済部 畜産係長)

【退職日：令和8年3月31日(定年退職)】

園部係長は、昭和60年4月に入組以来、生産資材課給油所係に配属されました。以降は、生活店舗課・生産資材課・経営対策課・管理課・貯金共済課・経営相談課・美幌広域連出向・農産課等を経験し、令和8年3月に60歳で定年を迎え、本日まで勤務されました。

多岐にわたり課を経験しておりますが、この度、令和8年3月末日を以て、定年により退職となりました。41年間と大変長いJ A人生でしたが、大変お疲れさまでした。退職後もご健康で尚一層ご活躍されます様、心からお祈り申し上げます。



加藤 賢吾 (金融部 金融共済課長)

【退職日：令和8年3月31日(勤務年数 15年)】

この度、私事ですが一身上の都合により、3月31日をもちまして退職致しました。平成23年に入組以来、組合員の皆様を始め職員の皆様には大変お世話になりました。改めて御礼申し上げます。入組して15年の間、貯金共済課・農産販売課・管理課等の業務にて、組合員の皆様方には大変お世話になりました。4月からは津別町を離れることとなりますが、赴任先が近くになった際にはお声がけいただけると幸いです。最後になりますが、津別町農業協同組合・組合員の皆様方の益々のご発展、ご健康とご多幸をお祈りいたしまして、退職のご挨拶とさせていただきます。15年間大変お世話になりました。



松田 玲穂 (経済部 畜産係長)

【退職日：令和8年3月31日(勤務年数 9年)】

この度、私事ですが一身上の都合により、3月31日をもちまして退職致しました。令和29年4月に入組し経済部生産資材課課に配属後は、融資課・金融共済課・農産課・畜産課にて勤務させて頂きました。入組以来、9年の勤務年数ではありましたが、組合員の皆様を始め役職員の皆様には大変お世話になりました。改めて心からお礼申し上げます。4月からは、津別町を離れることとなりますが、J Aでの経験を活かして新天地でも頑張りたいと思います。最後になりますが、組合員の皆様並びに役職員の皆様のご健勝とご多幸と津別町農業協同組合の更なるご発展をお祈り申し上げ退職のご挨拶とさせていただきます。短い間でありましたが、お世話になり有難うございました。



上田 隆裕 (経済部 畜産課 堆肥センター勤務)

【退職日：令和8年3月31日(勤務年数 5年5ヵ月)】

上田職員は、令和2年11月1日付で採用され、勤務されました。この度、一身上の都合により退職されましたが、堆肥センターにて精力的に業務に当たって頂き大変お世話になりました。

5月下旬・6月上旬の主な行事

5月16日	土		6月1日	月	
17日	日		2日	火	経営会議
18日	月		3日	水	
19日	火	健康相談	4日	木	
20日	水		5日	金	
21日	木	小麦青空講習会	6日	土	獣魂慰霊祭
22日	金		7日	日	
23日	土		8日	月	
24日	日		9日	火	
25日	月		10日	水	
26日	火		11日	木	年金友の会パークゴルフ大会
27日	水	理事会	12日	金	
28日	木		13日	土	
29日	金		14日	日	網走川流域一斉清掃
30日	土		15日	月	津別神社春季例大祭
31日	日		16日	火	企画会議

Nツアーは“ふれあいツーリズム[®]”を通じて、
JAグループ・地域の「つながり」をお手伝いします。

“ふれあいツーリズム[®]”とは？

Nツアーは、JAグループのこれからの旅行事業として「ふれあいツーリズム。」を提唱しています。
「ふれあいツーリズム。」とは、JAを拠点に、人と人、JAと地域、JAグループ間、都市と農村の「集い」「ふれあい」「行き交う」をコーディネートする取り組みです。「旅」や「イベント」の中で、お互いの相互理解を深める「交流・つながり」の演出を加えることで、人々が共通の体験を通じて心を通わせ、人と人の新たな絆、より強い絆づくりを目指します。



JA支店ふれあい企画のご提案

Nツアーでは、ふれあいツーリズム。の実現として「JA支店ふれあい企画」をご案内しています。
「JA支店ふれあい企画」とは、JA支店を拠点にJAと組合員・地域住民との接点(ふれあい)づくりを目指すJA支店職員または、組合員・地域住民が主体となって実施する旅行や催しなどの企画です。



「JA支店ふれあい企画」 4つの柱

- 1 全地域住民を対象に
- 2 高齢者を対象に
- 3 女性を対象に
- 4 子どもたちを対象に